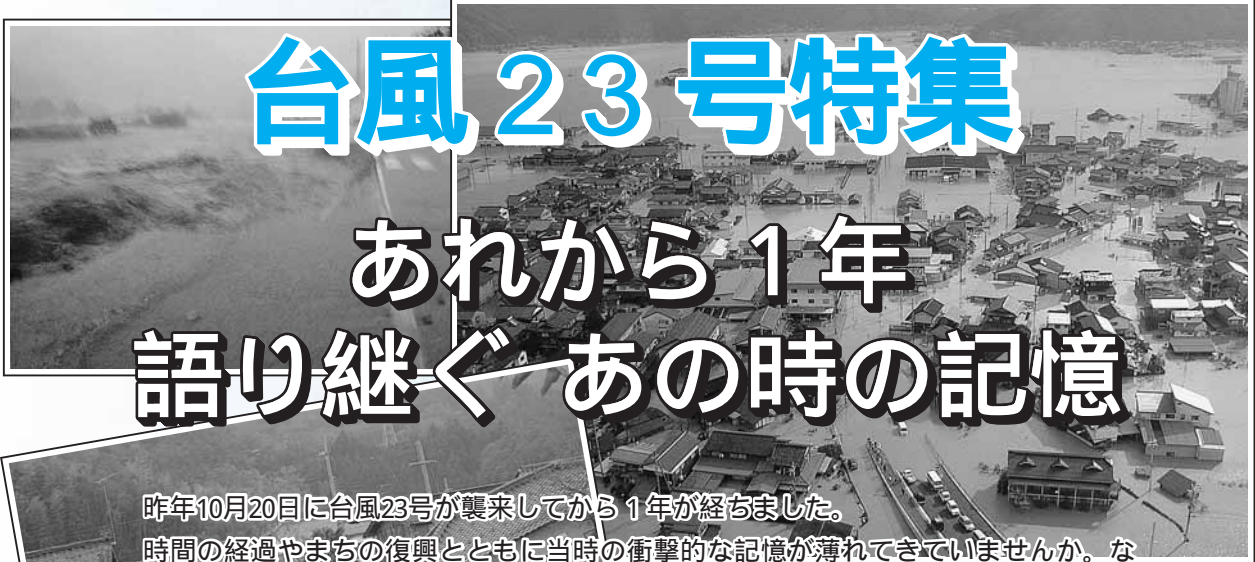


台風23号特集

あれから1年 語り継ぐあの時の記憶

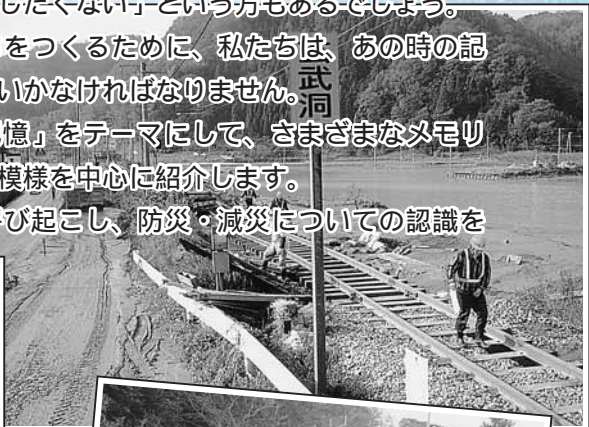


昨年10月20日に台風23号が襲来してから1年が経ちました。
時間の経過やまちの復興とともに当時の衝撃的な記憶が薄れてきていませんか。な
かには「あのつらい体験をもう二度と思い出したくない」という方もあるでしょう。

しかし、あの経験を活かし安全安心なまちをつくるために、私たちは、あの時の記
憶を風化させることなく、次代に引き継いでいかなければなりません。

10月には、市内で「語り継ぐ あの時の記憶」をテーマにして、さまざまなメモ
リアル事業が実施されました。今月号ではその模様を中心に紹介します。

皆さんも一忘れかけている当時の記憶を呼び起こし、防災・減災についての認識を
新たにしていいただければと思います。



出石川の濁流によって道路が崩壊(但東町平田) 泥の海に沈む住宅街(江本) 県消防防災航空隊
提供 堤防の決壊により水流に押しつぶされた家屋(出石町鳥居) 線路も無残な姿に(城崎
町上山) 消防隊や自衛隊などによって懸命の
救助活動が行われた(江本) 大阪市消防局提供
河川の氾らんにより土壁が流され骨組みがむき
出しに(日高町赤崎) 海岸に漂着した災害ごみ
をボランティアが清掃(竹野町切浜)

台風23号災害から1年を迎えて

豊岡市長 中貝宗治



このメッセージは、台風23号から1年にあたる10月20日夜に、防災行政無線・有線設備で臨時放送されたものです。

失ったものを取り戻すために努力を積み重ねてきました。歯を食いしばり、支え合い、助け合いながら、前へ前へと進んできました。その努力は次第に実り、元の状態に完全に戻ったとはいえませんが、まちの復旧・復興は、全体として着実に進んでいます。

何よりもまず、不屈の精神と未来への希望を決して失わなかった市民の皆様を私は誇りに思います。また、全国から寄せられた温かいご支援と励ましに感謝を申し上げます。

あの恐ろしい日から1年が経ちました。昨年の台風23号は、私たちのまちから7名の方の尊い命を奪い、市民の皆様の大切な日々を奪い、美しい、美しかったふるさとを傷つけました。

あの日以来、私たちは、

特に、昨年の反省から、災害情報の収集と伝達のあり方について検証し、検討を深めてきました。9月上旬に西日本へ接近した台風14号の際には、検討の結果に基づき、防災行政無線・有線設備で情報をお伝えしたところです。

市民の皆様へのきめ細かな情報提供、専門用語のわかりやすい言葉への置換えなど、「いつ、どのような内容を、どのような表現で」お伝えすると効果的であるかについて、今後精度を高めてまいります。

防災の世界に「黄金の72時間」という言葉があります。建物の下敷きなどになった場合、災害発生から72時間を過ぎると極端に生存率が下がります。救助は最初の72時間、3日間が勝負だということを表した言葉です。

これまで、豊岡市では、被災された方々の生活再建支援、道路・河川・農地・山林などの災害復旧、災害ごみの処理、産業の復旧・復興、水防訓練や防災研修会の開催などに、全力で取り組んできました。

災害発生時に私たち行政側は、一刻も早く救出できるよう最善を尽くします。自衛隊も全国各地の消防の応援も必ずやってきます。

しかし、昨年のような全市民的な大災害のときには、すぐにはすべての皆様のもとに向かうことはできないかもしれませぬ。

もちろん私たちは全力を尽くします。しかし、市民の皆様も、ぜひ最初の3日間は「自分で自分を守る」という意識と備えをお持ちいただきたいと思います。

市民の皆様と行政がそれぞれ頑張り、力を合わせることで、安全・安心の度合いは高まるはずで。

今日、10月20日は台風23号による被災の「メモリアルデー」です。被災者追悼の集い、災害写真展、幼稚園・小学校・中学校の防災・減災授業など、災害から1年の節目の時にあたり、今日の日を中心として各種の関連事業を行っています。市内40カ所に浸水の記録を示す柱の設置も始められました。

その目的は、あの災害を決して忘れない、風化させないということに尽きます。私たちは辛い経験をしました。失われた命は決して戻ってはきません。もう思い出したくないという方もあるでしょう。

しかし、あの私たちの経験を今後活かすためにも、あえて心に刻み込むことが大切であると思います。

未曾有の災害の中で、私たちを勇気づけてくれたのは、人と人との絆でした。「孤立した。しかし、孤独ではなかった」と言われた市民の方もありました。あの災害で最大の教訓は何だったのか。私自身は「人と人との絆こそが人間を救う」ということではないかと考えています。

人と人との絆、そして地域の絆をより強めながら、かけがえのない命と財産をみんなの力で守ることのできる、「災害に強いまち」を共に創りあげていきたいと思えます。市民の皆様は頑張り、改めて敬意を表しまして、台風23号災害のメモリアルデーにあたっての挨拶といたします。